

1. 中学校

- (1) 大編成（A 部門）と小編成（B 部門）の人数別の分布は、年度を追う毎にピークが下がっています。2022 年度のピークは、大編成（A 部門）で 36 人～45 人、小編成（B 部門）で 16 人～25 人にあり、中学校は編成の大小に関わらず少人数化が進んでいます。

（グラフ資料 p. 1）

- (2) 2017 年度から 2022 年度にかけての変化量を見ますと、大編成（A 部門）で 9.0%の減少、小編成（B 部門）で 2.2%の増加、不参加は 6.9%の増加となっています。

大編成（A 部門）の減少と不参加の増加が大きくなっています。（グラフ資料 p. 4）

- (3) 2022 年度、コンクールに参加した中学校の 79.0%が 35 人以下であり、少人数バンドに対する対策が必要な状況です。しかしながら、中学校では地域移行がどの程度進むかによって状況が変わると思われます。今後の推移を注意深く見る必要があります。

- (4) 地域バンドについては 3 正会員連盟で 4 団体が報告されています。これらは今回の地域移行とは関係なく設立されたものと思われます。

2023 年度は地域移行の初年度です。各地の動向を注視する必要があります。

2. 高等学校

- (1) 大編成（A 部門）の人数別の分布は、数は減らしてはいるもののピークは 46 人以上にあり変化はありません。これに対して的小编成（B 部門）の人数別の分布は少人数化の傾向を見せており、人数別のピークは 16 人～25 人にあります。高等学校では、二分化が進んでいると思われます。（グラフ資料 p. 2）

- (2) 2017 年度から 2022 年度にかけての変化量を見ますと、大編成（A 部門）で 7.2%の減少、的小编成（B 部門）で 1.5%の減少、不参加は 8.6%の増加となっています。

高等学校でも、大編成（A 部門）の減少と不参加の増加が大きな特徴に見えます。

（グラフ資料 p. 4）

- (3) 2022 年度、コンクールに参加した高等学校の 67.8%が 35 人以下であり、中学校同様、少人数バンドに対する対策が必要な状況と思われます。

- (4) 高等学校は地域移行の対象とはなっていませんが、中学校での地域移行の進み具合によって高等学校、特に公立の高等学校は大きな影響を受けるのではないかと懸念されるどころです。中学校同様、地域移行の影響を注意深く見ていく必要があります。

- (5) 定時制・通信制の加盟は、5 正会員連盟 8 校で加盟校数の 0.8%と言う結果でした。

3. 大学

- (1) 大編成 (A 部門) と小編成 (B 部門) の人数別の分布は、中・高とは大きく異なります。2022 年度の実績でコンクールに参加している大学の 96.1%が大編成 (A 部門) に参加しています。人数別・編成別の分布は、数は減らしてはいるもののピークは常に 46 人以上にあります。これに対して小編成 (B 部門) の参加は 4 校と少ない状況です。大学部門では小編成 (B 部門) の設定がない場合が殆どであることが要因と考えられます。(グラフ資料 p.3)
- (2) 2017 年度から 2022 年度にかけての変化量を見ますと、大編成 (A 部門) で 13.6%の減少、小編成 (B 部門) で 3.6%の減少、不参加は 17.2%の増加となっています。2022 年度、コンクールに参加しなかった大学が全体の 53.6%を占めています。これは中・高とは大きく異なる点で、非常に大きな問題点であると考えます。(グラフ資料 p.4)
- 2023 年度より、大学部門の全国大会の出場枠を 2 枠増やしましたが、今後の動向に注意を払いながら、更なる振興策が必要と思われる。
- (3) 同一大学内の複数のバンドは 18 校に 32 のバンドが報告されました。その殆どは東京都支部で 13 校 21 団体 (65.6%) です。未回答の正会員連盟もありますので、実際にはもう少し存在するものと思われる。

4. 小編成 (B 部門)

- (1) 11 支部のうち 10 支部で、中・高の小編成 (B 部門) の大会を実施しています。正会員連盟では、回答いただいた 46 正会員連盟のうち 43 正会員連盟 (93.5%) が実施しています。

しかしながら参加の条件 (出演者数、部員数、演奏時間等) は様々です。

| 出演者数上限 | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|-----|----|
| 出演者数 | 15 名 | 20 名 | 25 名 | 30 名 | 35 名 | その他 | 計 |
| 回答数 | 1 | 7 | 11 | 13 | 7 | 4 | 43 |

| 部員数制限 | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|-----|----|
| 部員数 | 15 名 | 20 名 | 25 名 | 30 名 | 35 名 | 40 名 | その他 | 計 |
| 回答数 | 1 | 7 | 5 | 4 | 6 | 3 | 2 | 26 |

演奏時間は 7 分が多く、24 正会員連盟 (42.1%) がこれに当たります。

課題曲を課している正会員連盟が一例ありました。演奏時間は、自由曲と合わせて 8 分で設定されています。

- (2) 小編成 (B 部門) の実施と共に合同を認めているのは 51 正会員連盟 (89.5%) でした。しかしながら合同での参加数は、2022 年度の中学校で 60 校 29 団体に留まっており、これは加盟校数の 0.9%、小編成 (B 部門) 参加校の 1.7%、高等学校では 52 校

24 団体で加盟校数の 1.7%、小編成（B 部門）参加校の 4.1%となっています。

様々な理由があるのだと思いますが、予想以上に合同参加は利用されていないと思われませんが、来年度より中学校の合同参加が可能になる事で増加していくことも考えられます。同行を注視したいと思います。

※加盟校数及び参加校数は、データに合わせるため未回答の正会員連盟の数を抜いて計算しています。

5. まとめ

- (1) 中学校と高等学校の少人数化は大きな課題であり、有効な対策の検討が喫緊の課題と言えます。ただ、2023 年度より開始された中学校の部活の地域移行の動向により様子が大きく変わるものと考えられ、状況を注視しながら検討を進める必要があります。
- (2) 2024 年度より中学校の合同参加を認めますが、今回の調査結果では合同バンドは少なかった様です。しかしながら、地域移行の影響で合同バンドが大きく増加することも考えられ、状況を注視しながら更なる対策の検討が必要と考えます。
- (3) 高等学校も 2～3 年後には地域移行の影響が現れてくるものと思います。状況を注視しながら対策を検討する必要があります。
- (4) 大学は、コンクールに参加する団体を増やすための対策が必要で、同一大学内の複数の団体の加盟を認めることは、その一策となる可能性があると考えます。
- (5) 働き方改革、新型コロナウイルス、中学校の部活の地域移行等の影響により、吹奏楽を取り巻く環境が激変しています。特に地域移行に関しては自治体の対応が様々で、今後の動向が予測し難い状況です。支部連盟や正会員連盟の皆様と協力し、次の時代に繋がる吹奏楽活動を模索していきたいと考えます。